

師走 愛南文芸

みなみうわ俳句会

名月やグラスの中に見え隠れ
あれこれと事の運ばぬ秋灯下
忘れゆく生家の間取り実南天
航跡の寄する波音秋の昼
訊きし名をはや忘れおり草の花
白木槿蒼も添えて佛壇に
鬼ヶ城四百年の秋の声

竹村 勝利
宮下 峰月
濱 初榮
中川千代子
木村 智子
若林八重子
田口ひさ子

御荘俳句会

秋嶺の輝く風車空の青
石磴を駆ける少年息白し
一葉落つ言葉少なき日なりけり
朱の色は橋鮮烈や冬に入る
秋の暮風の高さにジャズ流れ
炬開きや新調の帯きゆつと結び
檳榔子
申年の姑は熟柿が好きだった
萩叢の風の形に揺れており

尾崎 松恵
加洲勢津子
山本 金子
吉田 朝子
三好ミキエ

はじめまして。赤ちゃん。

10月受付分(敬称略)

地区名	子の名	保護者
-----	-----	-----

ご冥福をお祈りします。

10月受付分(敬称略)

地区名	亡くなった方	享年
-----	--------	----

熟しても鳥親しまぬ異国柿
柿の木もつけて手離す農地かな
焼魚に青き香を解く柚子の昼
栗を剥く夜なべの母の丸き背な
戦中派諸蔓料理を戦後派に
空海の空へ秋めく檳榔樹
水うまし柿またうまし子規の郷

濱野 康子
吉田モミエ
山口 和子
山口 董
若林八重子
若山 節子
井上 論天

西海俳句会

芋掘りし日を思いつつ昼風呂に

利根早智江

「介護予防」

バタカラの口腔体操いわし雲
シルバー車の世話になりつつ秋惜しむ
子も孫も身近に住みて敬老日
一尋の鰯釣る古老秋日和

吉田 朝子
吉田 笑代
浜木チズエ
吉田 弘定

新くさの葉短歌会(はこべ)

寺を守る馴れぬ仕事に苦勞ありしも継ぐ嫁も居て幸なりき
入院の三日をつきそいくれし子に松山は遠いねとふとつばやきぬ
白樺に風吹き渡る摩周湖のコバルトブルーの水の深さよ
久々に歩む野徑に空よりも濃き藍に咲く露草の群れ

市川コマエ
長田ハル子
西崎 文恵
前田 充



※上記情報は、広報誌掲載に対して、ご家族等に同意をいただいております。